地球規模のカーボンニュートラルを目指すには？

日本の民間資金・技術による海外の森林の持続的利用と保全の可能性

気候変動危機への対応には、これまでは個別の動きが多かったが、民・官・学が力を合わせて、より迅速にカーボンニュートラルな社会を達成することが求められる。カーボンニュートラルの達成に向けての多様な方策案の中でも、土地利用変化による気候変動の緩和・適応策は、経済的かつ実現可能性が高いとされる。日本をはじめとする先進国の民間企業では、熱帯を中心とする森林の保全への貢献により、気候変動やSDGsへ貢献することを目指しているところも増えている。しかし、カーボンのみに注目しては、意味のある持続的開発にはつながらない。例えば、貧栄養の白砂土壌に成立するマダガスカル北西部の乾燥林は、生物多様性や生態サービスの見地からも世界遺産クラスの森林だが、その炭素貯蔵量は少ないので、炭素のみで算出されたクレジットでは持続的土地利用必要な資金は十分獲得できない。

本フォーラムでは、2020年ごろから急速に国際的議論や取り組みが進みつつある民間資金の森林による気候変動の緩和、適応活動への関与、日本でも関心が広まりつつある企業の「ネットゼロ」に向けて次々と新しい枠組みができている森林炭素市場の動向、ルール作りなどについての現状を広く周知すると共に、日本の民間資金や技術を活用した森林ビジネスの海外展開に関して様々な関係者がそれぞれの立場で何が必要なのか、求められているのかを議論する。

参加無料

2022年2月28日(月) 9:30–12:30

方　式 オンライン

定　員 100名

申込・詳細 https://www.kyodai-original.co.jp/?p=14808

申込期限 2022年2月25（金）正午

主催：京都大学熱帯林研究ユニット

本フォーラムは、科学技術振興機構（JST）・持続可能開発目標達成支援事業（採択プロジェクト名「マダガスカル北西部乾燥林の生態系サービス評価とREDD+による持続的開発計画の設計）ならびに京都大学SPIRITS「熱帯白砂林における生物多様性と生態系機能の大陸間比較」の支援を受け開催するものです。

プログラム

9:30 – 9:45	開会挨拶 マダガスカルでの熱帯白砂林を例にとっての趣旨説明 北島薫 ＜京都大学農学研究科＞
9:45 – 10:05	日本の民間セクターの技術・資金による海外での森林ビジネス、保全活動への関与の可能性 瀧本麻子 ＜京都大学熱帯林研究ユニット＞
10:05 – 10:25	日本企業のREDD+への参画目的、手段及び課題 江原誠 ＜森林総研・森から世界を変えるプラットフォーム事務局＞
10:25 – 10:40	休憩
10:40 – 12:30	パネルディスカッション 「日本企業の海外森林ビジネスや森林保全活動への関与を促進するためには何が必要とされているか」 ・各パネリストから5分程度の事例紹介（合計30分） ・パネルディスカッション（50分） ・質疑応答（30分）

■パネリスト

北島薫 ＜京都大学＞

谷本哲朗 ＜独立行政法人国際協力機構（JICA）・森から世界を変えるプラットフォーム事務局＞

日比 保史 ＜一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン＞

仲井一志 ＜ヤマハ株式会社＞

洲上奈央子 ＜ダイキン工業株式会社＞

関川博之 ＜株式会社イトーキ＞

■モデレーター

瀧本麻子 ＜京都大学＞

京都大学

登　壇　者　紹　介

北島 薫 ＜京都大学農学研究科 教授＞

京都大学農学研究科教授。米国イリノイ大学博士号取得。フロリダ大学にて1997年から勤務の後、2013年から現職。専門は植物生理生態学で、特に熱帯林の機能と持続性に関する研究を中南米、東南アジア、アフリカで行ってきた。IPCC気候変動「気候変動と土地利用」特別報告書（2018）の主要執筆者、また、国連食料システムサミットの科学者グループのメンバーとしても、持続可能開発における森林の保全と管理について国際的に活動してきた。

瀧本 麻子 ＜京都大学学際融合教育研究推進センター 熱帯林保全と社会的持続性研究推進ユニット 連携研究員、（今2月より）Architecture for REDD+ Transactions事務局 シニアポートフォリオマネージャー＞

2017年フロリダ大学博士号取得（気候変動とアグロフォレストリー）。JICA職員、国連職員、カンボジア政府REDD+政策アドバイザー、コンサルタント等を経て、現職。

江原 誠 ＜国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 生物多様性・気候変動研究拠点 主任研究員＞

2015年九州大学比較社会文化学府博士課程修了・博士（理学）。在インドネシア日本国大使館派遣員、NGO職員等を経て2016年より現職。

谷本 哲朗 ＜独立行政法人国際協力機構（JICA）地球環境部 技術審議役＞

1994年林野庁入庁、国有林の管理経営や海外林業協力、木材利用推進等の業務に従事。2013年より2年間インドネシアの技術協力プロジェクトで長期専門家として西カリマンタン州林業局に派遣。2020年4月より現職。

日比 保史 ＜一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン 代表理事＞

野村総合研究所、国連開発計画を経て、2003年よりCIジャパンのマネジング・ディレクター。気候変動、生物多様性、持続可能な開発 などの分野で、政府や企業との連携、政策提言に取り組む。国際機関や政府の委員を多数務める他、企業の環境/CSRアドバイザーも務める。上智大、学習院大などで非常勤講師。米デューク大学環境大学院修了。

仲井 一志 ＜ヤマハ株式会社 調達技術部 主事＞

2009年、京都大学大学院農学研究科修士課程修了後、ヤマハ株式会社に入社。楽器用木質系複合材料の開発や天然樹脂を用いた伝統的塗料の製法開発等、木材および木質材料の研究開発に広く携わる。2015年より、林野庁補助事業やJICAの民間連携事業（BOPビジネス連携事業）として、タンザニアでのアフリカンブラックウッドを中心とした森林保全モデルの構築に係る研究、実証調査を進めている。木材の効率的な利活用を切り口として、良質で有用な森林資源を地域と共存して育てていくことが目標。博士（農学）、技術士（森林）

洲上 奈央子 ＜ダイキン工業株式会社 CSR・地球環境センター＞

2003年ダイキン工業（株）入社。グローバル戦略本部にて欧州マーケティング業務に従事したのち2011年よりCSR・地球環境センターにてCSRコミュニケーションや生物多様性保全業務を担当。

関川 博之 ＜株式会社イトーキ 営業本部 ワークスタイルデザイン統括部 ワークスタイル事業開発室＞

2010年 東京農工大学 大学院 生物システム応用化学府 修了後、株式会社イトーキに入社。中央研究所 素材開発グループに配属となり、オフィス家具向けの木質素材やバイオマス材料の研究開発などを担当。2019年に重点市場開発部へ異動し、高等教育市場の政策調査などに従事。2021年から現在に至る。

■主催：京都大学熱帯林研究ユニット
■協力：森から世界を変えるプラットフォーム(事務局：森林総合研究所およびJICA)、ヤマハ株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社イトーキ、一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン
■支援：科学技術振興機構(JST)持続可能開発目標達成支援事業「マダガスカル北西部乾燥林の生態系サービス評価とREDD+による持続的開発計画の設計」、京都大学SPIRITS「熱帯白砂林における生物多様性と生態系機能の大陸間比較」

お問合せ

京大オリジナル株式会社 コンサルティング事業部　TEL：075-753-7765　E-mail：event1@kyodai-original.co.jp